

# 「秘境椎葉の地質巡検」

## —5万分の1地質図幅「椎葉村」地域—

斎藤 眞<sup>1)</sup>・木村克己<sup>1)</sup>・内藤一樹<sup>2)</sup>・酒井 彰<sup>1)</sup>

### 1. 平家落人伝説の村“椎葉村”

「庭のさんしゅう(山椒)の木 なる鈴かけて…」で始まるひえつき節は、椎葉村に流れてきた平家の落人の鶴富姫と彼女らを討伐にやってきた源氏方の那須大八郎宗久の悲恋を歌ったとされる歌である。

鶴富姫と那須大八郎宗久は椎葉で恋に落ちたが、宗久に帰国命令が出て、彼は椎葉を去らねばならなくなった。その時すでに鶴富姫は彼の娘を宿し、彼の帰国後に生まれた。娘は成長して婿をとり、その息子に那須下野守と名付けたといわれている。これが椎葉村に伝わる平家落人伝説である。5万分の1地質図幅「椎葉村」はこの椎葉村を中心とした地域の地質研究報告である。

5万分の1地質図幅「椎葉村」地域(以下「椎葉村」

地域と記す)は、九州の中央部、阿蘇山の南側に位置し、宮崎県と熊本県の境にある。主要部を占める宮崎県東臼杵郡椎葉村は、熊本県側の湯山温泉で有名な球磨郡水上村や、椎葉と同じく平家落人伝説のある八代郡泉村(五家荘)と接している。この地域は九州の中でも最も山深い地域の一つで、九州にありながら冬場には県境は雪に埋もれ、3月下旬になっても雪で通行不能の峠もある。まさに九州の屋根である。北側の鞍岡図幅地域内には、天然雪で営業する五ヶ瀬ハイランドスキー場があり、日本最南端の天然雪スキー場として有名である。

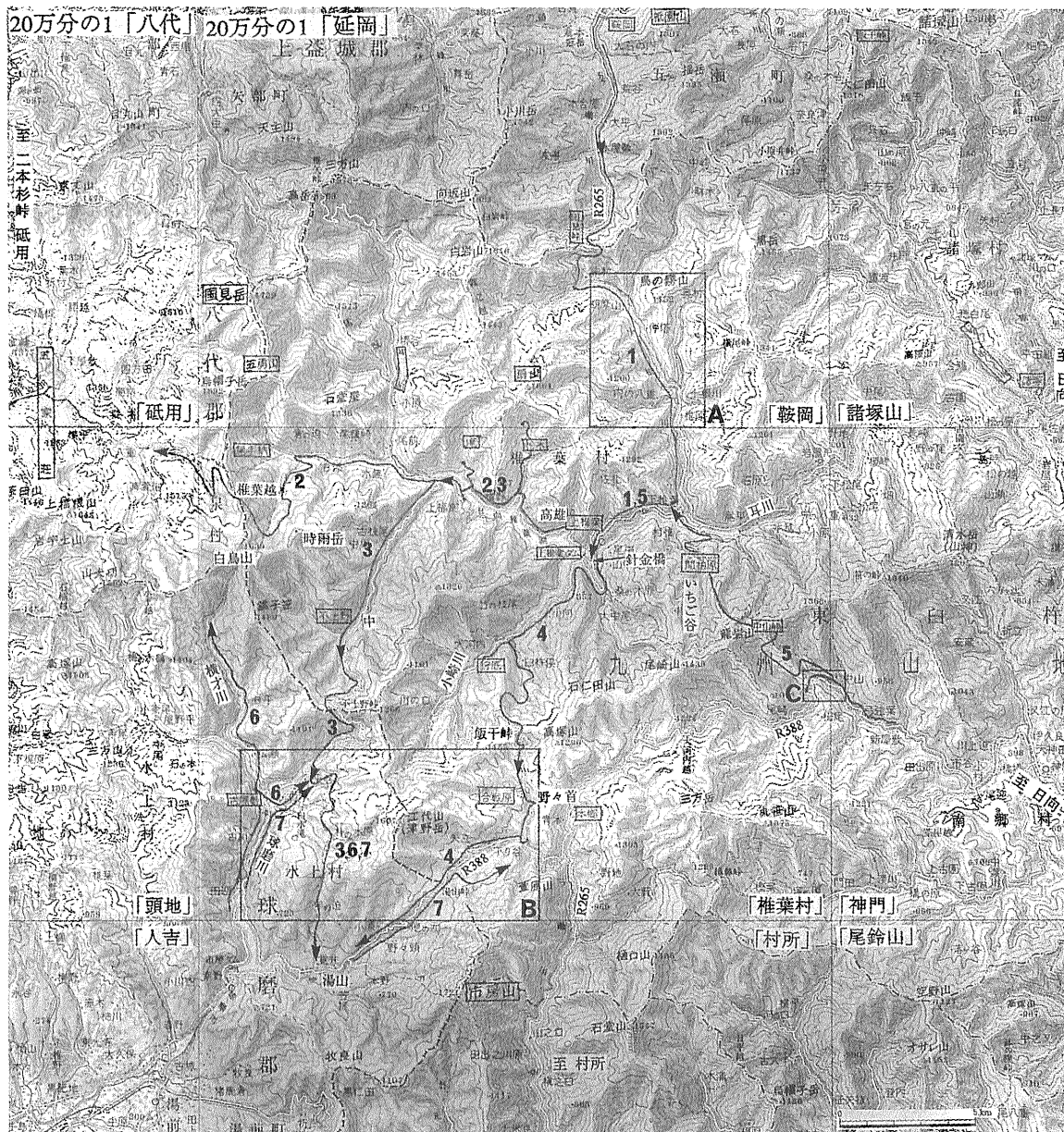
椎葉村は、宮崎県に属してはいるが河川沿いは断崖続きのため交通路は発達せず、むしろ山を越えて熊本県側との交流が古くから盛んであった。その名残りとして椎葉村北西部の尾前から北側の「鞍岡」地



第1図 上椎葉南方から上椎葉ダムを望む

1) 地質調査所 地質部  
2) 地質調査所 鉱物資源部

キーワード：椎葉村, 地質図幅, 巡検案内, 宮崎県, 熊本県



第2図 巡検コース(1-7)国土地理院発行の20万分の1地勢図「延岡」および「八代」を使用

域の国見岳(1,739m)を通して熊本県久部町至る駄馬道が今も稜線沿いに残っており、昭和30年代までは馬を引いて使っていたという。

この山深い地域の地質調査を平成3年秋から平成7年春まで(平成3年度-6年度)、足掛け5年にわたって行った。詳細については、地質図幅を見ていただくとして、ここでは「椎葉村」地域の地質巡検のモデルコースとそのポイントを紹介する。

## 2. 椎葉村までの交通(第2図)と宿

「椎葉村」地域の地質巡検をするのに、バイク・車以外の交通手段は非現実的である。小型観光バスかマイクロバスがなんとか椎葉村内の主要道路を通ることができる。椎葉村内を走る大型バスは、日向-上椎葉間の宮崎交通の路線バスと秋の紅葉シーズンに集団で来る観光バスくらいである。よい露頭の

ある所は道路条件がきわめて悪いところが多いので、バイク、車（林道に入るなら最低地上高の高い車）の利用が現実的である。実際、我々の調査時には悪路で2回タイヤの側面が切れてパンクし、交換となった。また、3月の調査時にはチェーンが必携で、峠道はチェーン規制や通行止めの所が多かった（椎葉村では冬季には冬用タイヤをつけた車が多い）。また、道路が曲がりくねっているので、同乗者は車酔い対策も必要である。これらの条件は八代郡泉村も同様である。

宮崎空港から上椎葉までは、日向経由・西都市村所経由どちらも車で3時間30分程度かかる。宮崎自動車道から九州自動車道人吉インター経由だと、3時間以内で到着する。熊本空港からは、前記の人吉インター経由ないし265号線で五ヶ瀬町鞍岡から入ると、宮崎空港からより近い。265号線は五ヶ瀬—椎葉間の国見峠越えのルートが狭くマイクロバスでも通行困難だが、現在トンネル工事中で、完成すると上椎葉と空港を結ぶ最も早いルートになる。椎葉村周辺、特に耳川沿いのルートは工事のために時間制限の通行規制が行なわれることがあるので、事前に情報を得ておくのがよい。他の峠越えのルートは巡検コースにはよいが道が狭く、未舗装の所や、通行止めの所もあるので、注意が必要である。

なお、椎葉村の中心地上椎葉までは、日向から諸塚村を経由して耳川沿いに宮崎交通の路線バスが日に数往復している（所用時間約2時間30分）。また、上椎葉から耳川流域の椎葉村内に向けては村営バスが走っている。本地域の球磨郡水上村内は路線バスが湯前町方面から球磨川沿いに古屋敷まで走っている。

「椎葉村」地域内の宿泊施設は中心地上椎葉に集中している。「椎葉村」地域北西部の尾前に数軒の宿がある。民宿は上椎葉以外にも点在している。「村所」地域内の水上村湯山温泉には温泉宿が多い。また、上椎葉ダム西側の椎葉村桑弓野にはキャンプ場がある（第1図、中央左寄り）。

### 3. 地質概説

ここではほんのさわりだけ述べる（第3図）。

椎葉村地域は、北西側から中期ジュラ紀—前期白亜紀の堆積岩コンプレックスからなる秩父累帯南帯、

白亜紀付加コンプレックスの諸塚層群からなる四万十累帯北帯、第三紀付加コンプレックスの日向層群からなる四万十累帯南帯に区分される。秩父累帯南帯と四万十累帯北帯は仏像構造線で境され、四万十累帯の北帯と南帯は北に緩く傾いた延岡構造線で境される。

秩父累帯南帯堆積岩コンプレックスは主にチャートと碎屑岩からなる樅木<sup>もみぎ</sup>ユニット、緑色岩・石灰岩に富むメランジュからなる尾前ユニットに区分される。諸塚層群は構造的上位の佐伯亜層群と広域変成作用を受け片状構造が発達した構造的下位の蒲江亜層群に区分される。本地域では前者が構造的上位から銚子笠、不土野、上椎葉の3ユニットから構成され、後者は三方岳ユニットから構成される。また、本地域の日向層群は、神門、本郷ユニットの2ユニットから構成される。

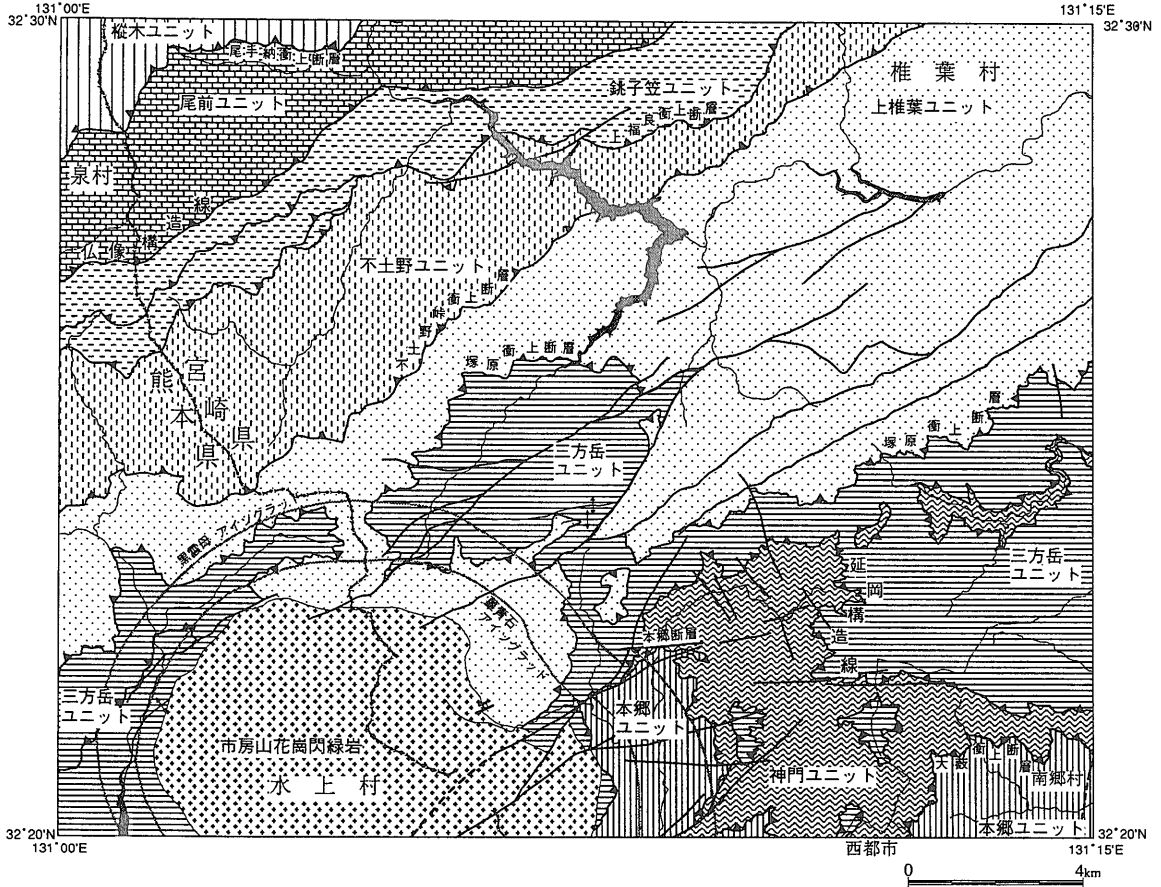
これら付加コンプレックスの形成年代は秩父累帯南帯、四万十累帯北帯、南帯の順で構造的下位に行くにつれて新しくなる。またそれぞれの内部においても同様に構造的下位に行くにつれて新しくなる。

付加コンプレックスの形成後、中期中新世の市房山花崗閃緑岩が四万十累帯の付加コンプレックスに貫入した。この花崗閃緑岩は5つの岩相に区分できた。

後期更新世（9万年前）には、阿蘇山がカルデラを作った大噴火を起こし、それによる阿蘇-4火砕流堆積物が谷沿いに堆積した。

### 4. 巡検コースと見学スポット

「椎葉村」地域に分布する地質体のうち、市房山花崗閃緑岩以外の堆積岩コンプレックスは東北東方向に連続するため、同様の地層は「神門」図幅（今井ほか、1979）、「諸塚山」（今井ほか、1982）で見ることができる。特に日向から諸塚村諸塚までの耳川沿いと、そこから北へ七ツ山川に沿って飯干峠を越えるルートで「椎葉村」地域に見られる四万十累帯、秩父累帯南帯の堆積岩コンプレックスはすべて見ることができる。このルートは露頭もよく、図幅も出版されているので、「椎葉村」図幅の報告書第5図、17図、18図で付加コンプレックスの対比関係を押さえておけば、あえて巡検で椎葉村に入る必要はなく、十分である。しかし、観光も兼ねて「椎葉村」地域に



第3図 地質概略図(「椎葉村」図幅, 研究報告書第4図)

ぜひ行ってみたい方のために以下の巡検コースを紹介する(第2図)。1日コースをいくつか紹介するので、組み合わせさせていただくとよいと思う。また、人吉方面に帰るときには湯山温泉で汗とほこりを流すと最高である(「椎葉村」地域から南東に続く市房山花崗閃緑岩体を2つに引き裂く正断層系の影響で涌き出ていると考えられる)。

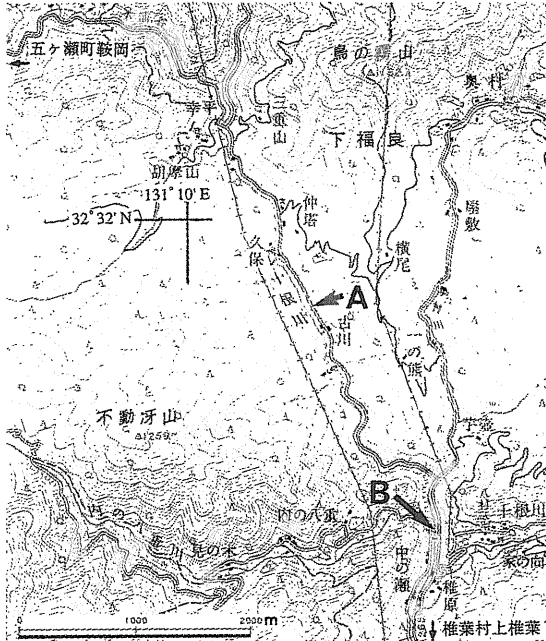
なお、[ ]内は椎葉村地域以外の5万分の1地形図を示す。地名は5万分の1地形図のものを使用した。なお、5万分の1地形図「椎葉村」の国道446号線は現在388号線となっている。太字の報XX図は「椎葉村」図幅の報告書の図の番号を表す。第X図はこの文の図を示す。詳細な露頭の位置については、報告書付図A-1を参照していただきたい。

**コース1. 熊本・阿蘇方面から国道265号線沿いに椎葉村へ(仏像構造線と諸塚層群)**

熊本・阿蘇→(五ヶ瀬町の祇園山周辺で黒瀬川帯のメンバーを見学の後)→椎葉村古川, 十根川沿い[鞍岡](仏像構造線は川の兩岸の石灰岩の大露頭の南限, 川原に露頭, 第4図A)→椎葉村中の瀬, 十根川沿い[鞍岡](銚子笠ユニット-不土野ユニット境界の緑色岩, 第4図B)→椎葉村針金橋周辺の耳川河床(上椎葉ユニット)→椎葉村上椎葉(泊), 鶴富屋敷と歴史民俗資料館見学。

**コース2. 椎葉村から峰越林道を経て五家荘へ(諸塚層群と秩父累帯南帯の堆積岩コンプレックス)**

上椎葉→椎葉村高尾, 日向椎葉湖沿い(不土野ユニットの頁岩)→椎葉村松木北方(尾前ユニット, 報10図, 地点Aから西へ広域林道工事中で露頭はよ



第4図 コース1の5万分の1「鞍岡」地域内の見学地。国土地理院発行の5万分の1地形図「鞍岡」を使用。

い)→椎葉村横野,日向椎葉湖沿い(阿蘇-4火砕流堆積物)→椎葉村上福良(銚子笠ユニット→不土野ユニット境界の緑色岩と上福良衝上断層,報31図)→椎葉村滝南方の新しい道沿い(仏像構造線と銚子笠ユニットの頁岩優勢互層,報16図)→椎葉村時雨岳北方(メガロドン化石を含む石灰岩,報14図A,地質図M2地点)→椎葉村椎葉越南方,峰越林道沿い(尾前ユニットの緑色岩,石灰岩に富むメランジュ)→泉村椎葉越西側(樅木ユニットのチャート,砂岩,砥石型頁岩など),この付近で天気がよくと雲仙が望める→泉村樅木,五家荘(5つの集落があるのでこう呼ばれる)(泊)。

樅木から国道445号線へ出て,砥用町から国道219号線経由で松橋インターまでは,1.5-2時間。

### コース3. 椎葉村から水上村へその1(秩父累帯南帯の堆積岩コンプレックス,諸塚層群と市房山花崗閃緑岩)

椎葉村上椎葉→椎葉村高尾,日向椎葉湖沿い(不土野ユニットの頁岩)→椎葉村松木北方(尾前ユニット,報10図,地点Aから西へ広域林道工事中で露頭はよい)→椎葉村上福良(銚子笠ユニット→不土野

ユニット境界の緑色岩と上福良衝上断層,報31図)→椎葉村滝南方の新しい道沿い(仏像構造線と銚子笠ユニットの頁岩優勢互層,報16図)→(不土野川の耳川合流点~古枝尾間は道路が狭く車の交差場所も乏しいので注意)→椎葉村不土野中,橋の南側(阿蘇-4の柱状節理,報56図b)→(不土野峠)→水上村平谷北方の魚帰川沿い(三方岳ユニットの緑色岩と千枚岩,第5図S1)→(分かれ道から小白水へ)→水上村平谷(市房山花崗閃緑岩体の周縁相と接触変成の様子,第5図G1)→白水滝の吊橋と遊歩道(眺めがとてもよい,市房山花崗閃緑岩体の周縁相,第5図A)→水上村湯山(温泉)(泊)。

湯山から国道219号線へ出て人吉インターまでは約50分。

### コース4. 椎葉村から水上村へその2(諸塚層群,日向層群と市房山花崗閃緑岩)

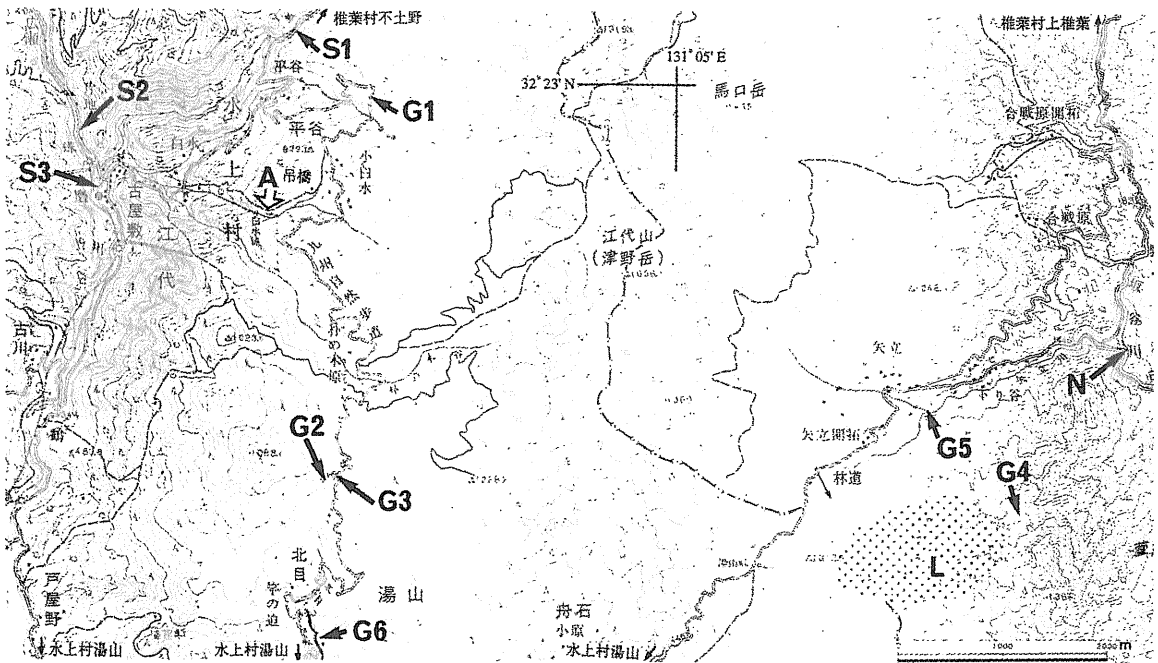
椎葉村上椎葉→(国道265号線)→椎葉村狩底,国道265号線と小崎谷への道路の分岐付近の小崎川河床(三方岳ユニットの千枚岩)→(飯干峠)→椎葉村合戦原入口付近,国道265号線と野々首への道の分岐付近(三方岳ユニットの珪質千枚岩など,報28図b,c)→板谷川河床(地形図では“坂”谷川となっているが誤り)(三方岳ユニットの酸性凝灰岩,報28図b)→板谷川と矢立川の合流点(第5図N,本郷ユニットの破断した砂岩頁岩互層と堇青石ホルンフェルス,板谷川川原を遡って延岡構造線まで行くことができる)→椎葉村矢立開拓~水上村湯山峠国道388号線沿い(市房山花崗閃緑岩Gdi,道路沿いは風化が進んでいる,矢立川と支沢の合流点の河床が露頭はよいが国道から下りるのに少し時間がかかる,第5図G5)→水上村湯山(温泉)(泊ないし人吉インターへ)。

### コース5. 日向方面から上椎葉へ(延岡構造線と諸塚層群)

日向方面から→南郷村阿切<sup>あせり</sup>小丸川河床(神門ユニット枕状玄武岩,赤色珪質頁岩,メランジュ,第6図C)[神門]。

この地点は鬼神野一榎尾溶岩溪谷として宮崎県指定の天然記念物となっており見事な枕状溶岩とその上位に重なる珪質頁岩が観察できる。

→椎葉村中山小丸川河床(神門ユニット,延岡構造



第5図 5万分の1「椎葉村」地域内の市房山花崗閃緑岩付近の見学地。国土地理院発行の5万分の1地形図「椎葉村」を使用。

線=第6図A,B, 三方岳ユニット, 報39図)→中山峠  
→いちご谷(上椎葉ユニット, 右岸側は舗装されてい  
て, 間柏原南方の急カーブを下りきった付近が露頭  
がよい。左岸側は舗装されていないが全体に露頭  
はよい)→上椎葉(泊)。

**コース6. 水上村, 球磨川流域1日コース(諸塚層群  
と市房山花崗閃緑岩)**

人吉方面→片地から横才川沿いの林道へ(日平の  
入り口までは舗装されている)→銚子笠真西の横才  
川沿い(銚子笠ユニットの最下部の緑色岩)。  
この先林道は銚子笠ユニットの中を仏像構造線のす  
ぐ南まで進み, 最奥部周辺は露頭がよいが, 登りが  
急で道の悪いところがあるので, 巡検ではここから  
横才川沿いに下るのがよい。  
→日平北西横才川沿い(不土野ユニット, 報21図,  
露頭条件はよい)→日平西方横才川沿い(上椎葉ユ  
ニット, 近くに小さな発電用ダムが2つある付近が露  
頭がよい)→片地横才川沿い(三方岳ユニット緑色  
岩, 第5図S2)→古屋敷, 魚帰川と球磨川の合流点  
付近(三方岳ユニット千枚岩, 第5図S3)→水上村平  
谷よりコース3の後半のルートへ→湯山温泉(休息)  
→人吉方面。

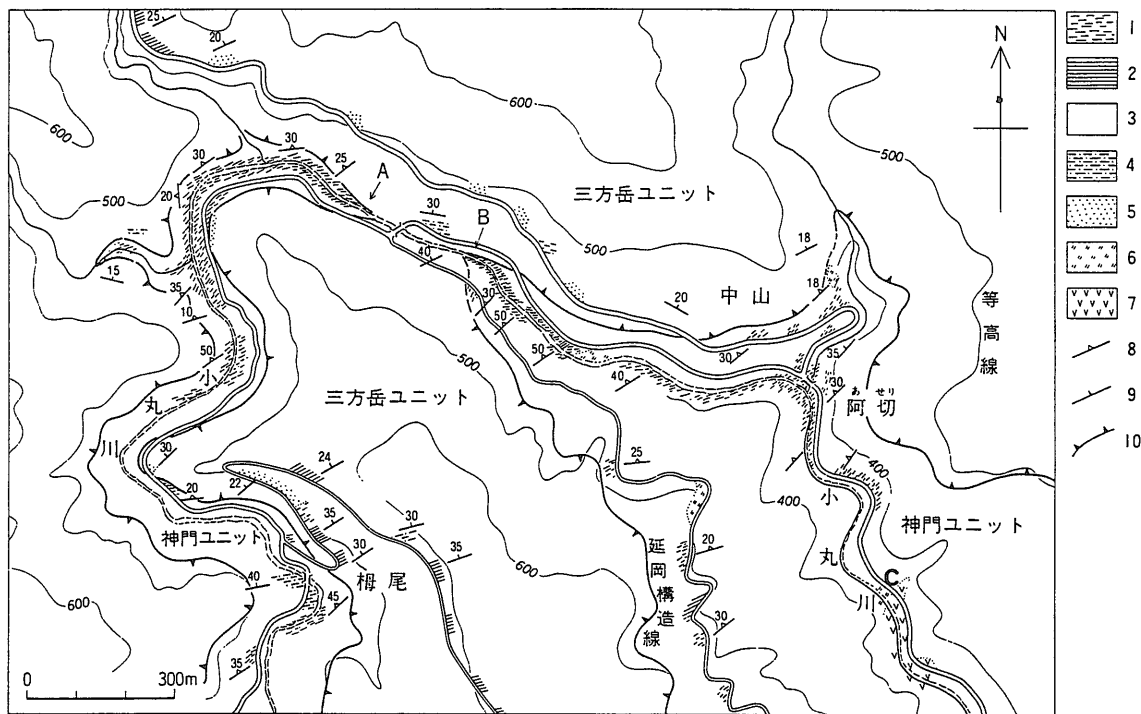
**コース7. 市房山花崗閃緑岩1日コース(地点は第5  
図)**

人吉方面→(古屋敷)→水上村平谷(市房山花崗  
閃緑岩体の周縁相Gdfと接触変成の様子, G1)→白  
水滝の吊橋と遊歩道(市房山花崗閃緑岩体の周縁  
相Gdfと, 第5図A)→朴の木原南方G2(典型的な  
中一粗粒岩相Gdm)→G3, 林道沿い(中一粗粒岩  
相Gdmに細粒斑状岩相Gdpが岩脈状に貫入, 沢の  
中では電気石のクロットを含むキャビティーが目立つ  
細粒斑状岩相Gdpの転石が見られる)→G6, 北目  
(中粒岩相Gdi)→(湯山経由)→(湯山峠)→矢立開  
拓から南側の林道へ→G4(典型的な粗粒岩相, 北  
東側の板谷川の流れる谷に面した部分では断層破  
砕帯がある)→市房山花崗閃緑岩の崩壊地L(マサ  
化が著しい)→湯山温泉(休息)→人吉方面。

**付録 山登りが好きな人のために**

**扇山[鞍岡]**

椎葉村松木北方の, 報10図, 地点Aから西へ広域  
林道を, 図の終点近くまで行くと登山口がある。頂上  
の南西肩にある避難小屋を過ぎて少し登ると, 霧立  
越の尾根に出る。尾根沿いに行くと頂上である。頂



第6図 小丸川沿いルートマップ(「椎葉村」図幅, 研究報告書第35図)

上まで尾前ユニットの中を登る。頂上からは遠く日向灘や阿蘇山、久住山の眺望がたいへんよい。南の市房山、北の祇園山は間近に見える。樅木ユニットのチャートのリッジは頂上からよく見える。なお、東の椎葉村内の八重から登るルートもある。

#### 白鳥山(県境の1638.8mの三角点, 御池南方)

御池はいまではほとんどない。椎葉側の峰越林道が最も南に張り出した所から登る(5万分の1地形図と登り口は同じだが、地形図のルートとは別に、御池と頂上の中間で尾根に出る)。泉村側は樅木から上福根山に延びる林道の途中から登る。

頂上付近は石灰岩と緑色岩である。御池は石灰岩の中の窪地であるらしいが、現在は笹藪に覆われている。樅才川の最上流部から登る道が地形図には示されているが、今は認められなかった。尾根筋は人の背よりも高い笹(スズダケ)が多く、迷い込むと

どちらへも進めなくなるので注意が必要。

このほか、北の「鞍岡」地域の国見岳、五勇山から「椎葉村」地域北西端の尾手納に下る秩父累帯南帯を通る縦走路や、「村所」地域の市房山(頂上は四万十累帯の堆積岩コンプレックス)から北へ向かい、市房山花崗閃緑岩を通る縦走路はたいへん気持ちのよい登山コースである。

#### 文献

- 今井 功・寺岡易司・奥村公男(1979): 神門地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 44p.  
 今井 功・寺岡易司・奥村公男・神戸信和・小野晃司(1982): 諸塚山地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 71p.

SAITO Makoto, KIMURA Katsumi, NAITO Kazuki and SAKAI Akira (1996): Excursion guide of the Shiibamura district.

<受付: 1996年10月4日>